

## 当初予算編成への方針は

### 操業支援や漁場づくりを

**問** 漁業者の一人ひとりの意欲を高め、やりがいのある漁業を目指すために、平成29年度当初予算編成に向けて、水産振興の方針や新規事業等への取り組みを聞く。

を検討している。

**問** 陸上における漁業用施設は整備されてきた。

物の見方を陸から沖へ転換し、資源管理型漁業としての並型・中層魚礁の設置は計画できないか。

**答** 尾崎海洋森林課長

今後の水産業についての、事業計画書を策定中。新規漁業者の確保では、安定した漁業収入対策として漁獲量を向上させるために、効率化を図る操業資金の支援や新たな漁場づくりなどの施策と予算化

**答** 大西町長

魚礁の漁獲効果は高いと認識しているが、県の方ではなかなか厳しい判断をしている。

最も効果的な配置は、今の魚礁群をいったん機能回復させて、その上に設置する方がより効果が高いと認識している。

多額の予算も必要とするが、町も一定の負担を覚悟して、国と新たな制度設計を協議する。

**問** イセエビ建網漁に町内で約80人の方が従事している。今年はいせエビの単価も1キ口当たり5千円超もしており、漁民の方も期待感を持っている。

築いそ（投石）事業は、新規に投入した物でも即効性があり、一定の生産額に結びつることから、計画的な実施はできないか。

**答** 尾崎海洋森林課長

新規漁業者を確保する手段として、終年操業ができる環境づくりと漁期、魚種に対応した複合漁法が行える漁場の確保が必要となっている。

その一つとして、築いそによる新たな漁場づくりを考えている。

**問** 土佐湾沖合には、黒潮ブイ15基が設置されている。

近年における漁獲高の実績は、沖合に更新（移動）した黒潮ブイに事業効果が見込まれる。

沖合に更新するよう要望できないか。

**答** 尾崎海洋森林課長

平成32・33年度に2基の更新が計画されているので、引き続き要望していく。

**問** 県の担い手育成団体支援事業によると、19トン型や近海カツオ漁船への就労支援や担い手の育成が可能と思われる。

優秀な乗組員を養成するためにも、関係団体との組織づくりはできないか。

**答** 尾崎海洋森林課長

新規漁業者の施策として対応できると思う。ただ、19トン型・近海カツオ漁船では、技術に熟練された方が、特に必要とされ、船主等のアドバイスを受けながら検討する。

【その他の質問】

※上分地区の信号機等設置について

※高齢者免許返納サポート制度について



なかしま いちろう 議員  
中島 一郎



カツオ一本釣り漁船 (佐賀漁港)